Let's enjoy sport climbing with Tomoa Narasaki

楢崎智亜

［世界トップ選手とスポーツクライミングを体験！］

「一人でも多くの子ども達と楽しみたい」

昨年に続き夏休み中の小中学生を指導する彼に今回の意気込みを聞いた。

福田剛=文
text by Tsuyoshi Fukuda

榎本麻美=写真
photograph by Asami Enomoto

1996年6月22日、栃木県生まれ。10歳の時に競技を始め、高校卒業後にプロ宣言。'16年にボルダリングW杯初優勝、同年の世界選手権で日本人初優勝。'17年W杯ではスピード、ボルダリング、リードの3種目で争う複合で初の総合優勝。ボルダリングW杯'18年モスクワ、'19年呉江で優勝

昨年7月にNumberとアイディホームのコラボレーションにより開催された「家族で楽しむスポーツクライミング体験会」が、今年も開催されることが決定した。前回に続き子ども達を指導してくれるのは、日本が誇るクライマー・楢崎智亜だ。

「前回のイベントでは、子ども達が最初から最後までずっと登り続けているのを見て本当にビックリしました。底なしのエネルギーを持っていますよね（笑）」

世界のトップに君臨する22歳がクライミングと出会ったのは、小学4年生のとき。幼稚園の頃から続けていた器械体操を辞めた後、体を動かしたいと家の近くにあるジムに通い始めたのがきっかけだった。

「当時はクライミングというスポーツ自体あまり知られていなくて、同級生でもやっている子はほとんどいなかったです」

それでも続けてきたのは、そこに他のスポーツでは感じることができない達成感があったからだ。

「クライミングは、目の前の壁を登って、てっぺんにあるゴールに辿り着くだけの競技です。単純ですけど、だからこそ難しさがあります。どうしても登れなかった壁に何度もトライして、ようやくゴールしたときは、本当に気持ちがいいですね。しかも、一度登った壁でも、ホールドの形が変わっただけで登り方が変わってくるから本当に終わりがないし、飽きない。初めて行ったジムで登ったことがない壁を見ると未だにワクワクします。常にチャレンジできるのがクライミングの醍醐味だと思います」

前回のイベントでは、強く印象に残っているこんな出来事があった。

「この日初めてクライミングに挑戦した男の子が、どうしても壁を登れなくて、とうとう泣いてしまったんです。でも頑張ってトライして、最後にやっと登りきることができました。そのときの嬉しそうな笑顔は今も覚えています」

頑張ることで、できなかったことをできるようにしてしまう子ども達の姿は、自分の競技への想いを奮い立たせる原動力にもなる。

「プロになって結果を出すことが重要になってくると、ただがむしゃらに壁に向かっていた頃のことを忘れてしまうことがあります。でも子ども達が一生懸命に登っていたり、登ることを純粋に楽しんでいる姿を見ると、自分がクライミングを始めた小学生の頃の気持ちを思い出して、原点に戻ることができるんです」

果たして今回はどんな体験会になるのだろうか。

「ジムに通っているキッズクライマーには技術的な指導もできますし、それぞれの技量に合わせて難易度を調整できるスポーツなので、まだクライミングをやったことがない子も参加して、挑戦する楽しさを感じてほしいですね」

楢崎智亜と共にクライミングを楽しめる貴重なチャンス。ぜひ応募を！ ■